

都市再生整備計画（だい第3回かい変更へんこう）

おたり小谷地区

長野県 おたりむら小谷村

平成28年12月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	長野県	市町村名	オオタリ 小谷村	地区名	オオタリ 小谷地区	面積	3200 ha
計画期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度	交付期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度				

目標

- 大目標 美しい自然を守り活かし、心やすらぎ笑顔で暮らせる村づくり
 目標1:安全安心な生活・産業基盤の整備
 目標2:災害に強い村づくり
 目標3:地場産業の振興や観光誘客による地域の活性化

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

当村は、急峻な山間地域の広範囲に小さな集落が広範囲に点在しており、公共交通機関が少ないことから、移動手段の多くは自家用車に依存している。しかし平成7年に豪雨災害に見舞われ、村内の交通網がずたずたに分断され、多くの孤立集落が発生した。このような事態を想定し道路整備や防災対策を実施しており、平成19年度～平成23年度の都市再生整備計画の中でも、孤立が予想される集落を中心に、通信手段や防災拠点施設の整備を実施してきた。しかし、まだまだ防災拠点施設の耐震化や備蓄庫の整備、通信手段の確保や老朽化した橋梁の整備など課題が多いため、本計画により更に災害に強いむらづくりを推進する。

また、近年、全国で頻発する大規模自然災害に対応するため、地域防災計画の見直しを行う中で、孤立する可能性の高い集落の一時避難所の整備が喫緊の課題となった。過疎・高齢化が進む当村では歩行補助機の利用者が増加し、村指定避難所(広域避難所)まで自力移動できない高齢者は、各集落の一時ほなんじよまでしか避難が出来ない。よって、平成7年の豪雨災害時に孤立した3集落の一時避難所の整備を早急に行うと共に、各集落の一時避難所まで歩行補助器を利用する高齢者が安全に避難できる環境整備を推進する。

過疎化・高齢化が進み、地域の活性化及び人口維持施策が急務となっている。増加する空き建築物を体験施設や交流拠点、住宅等として活用するとともに、農業や地場産業の充実、環境に優しい自然エネルギー等の活用を図ることで、都市との交流に着眼した誘客を進め地域の活性化及び人口維持を図っていく。

課題

- ・急峻な山間地域の広範囲に小さな集落が点在する当地域において、近年多発する台風や地震等、大規模災害を想定した防災対策の充実が課題となっている。
- ・過疎化による人口減少や高齢化により、集落機能の低下が進んでおり、人口増や誘客促進による地域の活性化施策が急務となっている。
- ・景気やニーズの変化により、村の主産業である観光業が低迷しており、新たな観光メニュー等の創出等、一層の観光誘客促進が必要となっている。

将来ビジョン(中長期)

「大地の恵みを活かし 誰もが住みたい 小谷村」

小谷村第5次総合計画(計画期間:平成23年度～32年度)で掲げた将来像を実現するための施策では、「心やすらぎ笑顔で暮らせる村づくり(インフラ・防災等)」「美しい自然と豊かな資源を守り活かす村づくり(観光・産業振興)」が大きな柱となっている。本都市再生整備計画により、この施策を実現するための基盤整備を図るものである。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	
				基準年度	目標年度	
安心度	点	10段階表示簡易アンケートによる、住民の防災に対する直感的な安心度。	防災施設や道路・橋梁の整備により、住民の直感的な安心度の向上が期待される。	6.4	23	28
避難場所の整備率	%	災害時における村指定広域避難所の整備率。	広域避難所、備蓄庫の整備により、災害時の収容人数の増加が期待される。	92.8	23	26
公民館の整備率	%	災害時における一時避難所(公民館)の整備率。	孤立する可能性が高い一時避難所の整備により、高齢者でも安心な一時緊急避難先が確保できる。	93.5	25	28
イベント参加者数	延人	地域で行う体験交流イベントへの参加者数。	体験交流施設の整備や地場産業の振興により、体験交流イベントへの都市等からの参加者数の増加が期待される。	94	23	28

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・村道や橋梁等のライフライン整備により、快適・安全な生活・産業の基盤を築きます。</p>	<p>【基幹事業】 ・道路(土倉線【泥崎】、川内下松沢線、沓掛線、池原下来馬線、小土山線、中谷西側線、塩の久保線、虫尾線【上】、大網線、土倉線【大別当】、池の田牧場線2、蕨平野田線、蕨平線、千国若栗線、虫尾線【下】、深原線【②】、柵池スキー場南線(柵池沢橋)、大久保線(吉尾沢橋)、池原下来馬線(高倉沢橋)、李平線(濁沢橋)、清水山線(堂田橋)、田中線(田中橋)、中谷西側線(黒倉橋)、李平線(白井沢橋)) 【関連事業】 ・道路(川尻線(東橋)) ・道路(伊折線) 道路(伊折線(杉山沢橋))</p>
<p>・防災関連施設の充実を図り、災害に強い村を築きます。</p>	<p>【基幹事業】 ・道路 柵池スキー場南線(柵池沢橋)、大久保線(吉尾沢橋)、池原下来馬線(高倉沢橋)、李平線(濁沢橋)、清水山線(堂田橋)、田中線(田中橋)、中谷西側線(黒倉橋)、李平線(白井沢橋)) ・地域生活基盤施設(地域防災施設:避難所耐震改修(中通・池原・黒川)、防災情報通信施設) ・地域交流センター(公民館) 【関連事業】 ・空家再生等推進事業(体験交流施設・住宅等) ・道路(村道川尻線(東橋))・道路(伊折線(杉山沢橋))</p>
<p>・地場産業の振興や都市との交流等による誘客力の向上を図り、地域の活性化及び人口維持を目指します。</p>	<p>【基幹事業】 ・道路(伊折線、中谷西側線、村道池の田牧場線2、村道蕨平野田線、村道蕨平線、村道千国若栗線、清水山線(堂田橋)、中谷西側線(黒倉橋)) 【関連事業】 ・山菜ときのこの里づくり事業 ・特産品推進室設置事業 ・空家再生等推進事業(体験交流施設・住宅等) ・農産物等加工貯蔵施設</p>
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○当該計画と整合・連携を図り推進していく主な計画 <ul style="list-style-type: none"> ・小谷村第5次総合計画(平成23～32年度) <ul style="list-style-type: none"> ※10年後の村の将来像として「大地の恵みを活かし 誰もが住みたい 小谷村」を掲げ、これを実現するための基本計画において「村内交通網の整備」「防災対策の強化」「地場産業の振興」等を位置づけている。 ・小谷村過疎地域自立促進計画(平成22～27年度) <ul style="list-style-type: none"> ※過疎対策として、当計画の中で道路・橋梁整備や地場産業の振興等による地域活性化施策、新エネルギーの利活用検討を掲げている。 ○特産品推進室の設置 <ul style="list-style-type: none"> ・農業や地場産業の振興、空き家の利活用等、総合的な地域振興を図るため、特産品推進室を設置することを見据え、平成23年度に準備室を開設した(H24年度から特産推進室)。 	

オタリ
小谷地区(長野県小谷村) 整備方針概要図

目標	美しい自然を守り活かし 心やすらぎ笑顔で暮らせる村づくり	代表的な指標	安心度 (点)	6.4 (H23年度) → 7.4 (H28年度)
			避難所の整備率 (%)	93.5 (H25年度) → 100 (H28年度)
			イベント参加者数 (延人)	94 (H23年度) → 300 (H28年度)

